透析患者に関する薬剤情報
医療法人に真会 白鷺病院 薬剤科

◎ナウゼリン OD 錠, ◎ナウゼリン坐剤 [外]

【重要度】 【一般製剤名】ドンペリドン Domperidone 【分類】消化管運動改善剤

【単位】◎10mg/OD 錠,◎60mg 坐剤

【常用量】■内服: 15~30mg/日, 小児には1日0.1~2.0mg/kg [最大30mg/日]

■坐剤:60~120mg/日

【用法】■内服:分3(食前)■坐剤:分2

【透析患者への投与方法】常用量(5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】常用量(5)

【特徴】メトクロプラミドと同様抗ドパミン作用であるが、P-gp によって汲み出されるため血液脳関門を通過しにくく錐体外路症状や神経症状を呈することが少ない、 胃排出遅延によると思われる食思不振、胃部膨満感、胃もたれの他に、上部不快感、嘔気・嘔吐を改善させる.

【主な副作用·毒性】内分泌異常(女性化乳房、乳汁分泌)、錐体外路症状、下痢、口渇、発疹、腸管麻痺など.

【安全性に関する情報】重篤な心室性不整脈または突然死のリスク上昇に関連「特に高齢者や高用量投与例」(1) QT 延長の可能性(1) 突然死との関連は用量依存的であり、30mg/日を超える投与量では注意が必要(Makari J, et al: Can J Hosp Pharm 2014 PMID: 25548402)

【吸収】93% (11) 急速に吸収される (Huang YC, et al: J Clin Pharmacol 1986 PMID: 3793955)

[F] 12.7% (1) 83~87%が初回通過効果を受けて消失 (11) 初回通過効果を受けやすくかなり低い (Heykants J, et al: Eur J Drug Metab Pharmacokinet 1981 PMID: 7250152)

【tmax】内服: 0.5hr (Heykants J, et al: Eur J Drug Metab Pharmacokinet 1981 PMID: 7250152) 0.9hr (Huang YC, et al: J Clin Pharmacol 1986 PMID: 3793955) 坐剤: 2~3hr (1) 1~4hr (Heykants J, et al: Eur J Drug Metab Pharmacokinet 1981 PMID: 7250152)

【代謝】代謝にはCYP3A4 が 50%関与 (1) ヒドロキシドンペリドンが主要代謝物で、糞便中に排泄され、他の2種の代謝物およびそれらのグルクロン酸抱合体が尿中に排泄される (Meuldermans W, et al: Eur J Drug Metab Pharmacokinet 1981 PMID: 6788556) M1, M4 には活性がない (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率 0.39% [po, 24hr まで] (1) 尿中未変化体排泄率 0.4%, 糞中未変化体排泄率 7% [po] (Meuldermans W, et al: Eur J Drug Metab Pharmacokinet 1981 PMID: 6788556)

[CL] 947mL/min [iv] (1) CL/F=4735mL/min (Huang YC, et al: J Clin Pharmacol 1986 PMID: 3793955)

[t1/2] 10hr (1) 12.6~16hr (Huang YC, et al: J Clin Pharmacol 1986 PMID: 3793955) 7.5hr (Heykants J, et al: Eur J Drug Metab Pharmacokinet 1981 PMID: 7250152)

【蛋白結合率】91~93%(1,11)

[Vd] Vd/F=6272L/man (Huang YC, et al: J Clin Pharmacol 1986 PMID: 3793955) 5.7L/kg (11)

[MW] 425.91

【透析性】蛋白結合率が高く分布容積も大きいため、透析で除去されにくいと思われる(5)資料なし(1)

【TDM のポイント】TDM の対象にはならない【OW 係数】8000 (11) LogP=3.20 [1-オクタノールbuffer, pH7.4] (1) 【pKa】7.8, 11.5 (1)

【相互作用】イトラコナゾールによる小腸の P-gp と CYP3A4 阻害により F が上昇する(吉里恒昭、他:臨床薬理 39:S215, 2008) CYP3A4 阻害剤併用で血中濃度上昇(1) エリスロマイシン併用により QT 延長の報告(1) P-gp 阻害による脳内移行性への影響は小さいかもしれない [ラット] (Breuil L, et al: Pharmaceutics 2022 PMID: 36015284) P-gp 阻害による BA 増大は認められる可能性(Islam N, et al: J Liposome Res 2022 PMID: 33944662)

【更新日】20240730

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確生、完全性、適別性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、 直接または間勝鎖に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。 ※本サイトに掲載の記事・写真などの無期産載・配言を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法が沢に国際条約により保護されています。